

テーマ『夏野菜を育てよう』

園庭に畑があり、毎年季節に応じた野菜を子どもたちと一緒に育てているため栽培をテーマとして設定する。野菜は子どもたちが食べる身近な食品であり、日ごろから畑の水やりをやりたがる子どもも多く、旬の野菜はどんなものがあるのか、どのように野菜を育てていくのか、実際に調べたり育てたりしながら学び、子どもたちの興味関心をさらに深めるため。

育てたい野菜を決めよう！

〈4月からの様子〉

・ぞう組が集まって野菜の旬を確認し合い、夏に育てられる野菜を知る。

野菜の絵カードを見せながら「夏野菜でしょうか？」と1つずつ聞いていく。「バジル」は名前が出る子はいなかったが「バジル」の名前を教えて、「どんな料理につかっているでしょう」と聞くと、1人の子が「らーめん！」と答える。「ヒントはピ」と大人がいうと、「ぴざ！」とみんなで閃く。ある子は「まるげりーただ！」とピザの種類までイメージしていた。

とうもろこし・トマト・ゴーヤ・枝豆・茄子・ピーマン・きゅうり・バジル・かぼちゃと夏野菜を確認した後で、保育園では育てられないものなどを伝え茄子・ピーマン・きゅうり・バジルの4つに絞る。「育てたら、どうやって食べられるかな。〇〇を使った料理を知ってるひと～？」と野菜ごとに聞くと、盛り上がる。



〈振り返り〉

野菜には夏に育てて食べる野菜と冬に育てて食べる野菜があることを伝えたくて、野菜の絵カードを渡して、夏に食べる野菜だと思うものをテーブルにのせてもらったが、全部の野菜がテーブルに並べられた。自分たちで野菜を育て経験もなく、調べることなしに分けてもらうのは難しかったと感じた。まずは、野菜の名前を確認したり、夏野菜のシルエットクイズなどにして旬を理解するスタートの方が良かったかなと振り返る。16人と人数も多いため、“みんなでやってみて”だと子どもたちも誰とどう話し合っているかわからず、喧嘩に発展してしまう場面もあった。絵カードがあったことで、野菜のイメージはしっかりつかめていた。

野菜を使った料理を出し合ったことで、“育てたら食べられること”がイメージでき栽培への意欲に繋がっていった。

〈5月からの様子〉

夏野菜を植えよう！

- ・花屋に行って苗を購入する
- ・プランターに植える(水やりをする)

花屋さんに向かう道は、散歩ではいけない道なので歩道橋を渡ると「なんか、たのしいね。」と嬉しそうだった。花屋さんがビニール袋に、1つずつ苗をいれてくれて持って帰って来る。帰り道の途中で疲れている姿の子もいたので、「持っていない子に持ってもらったり、交代で持ってね。」と声をかけると順番に持っていた。

帰園後は、遊びに行ってしまう子もいたが(庭で他クラスは遊んでいる)「これから植えるよ」と声をかけると戻ってきていた。



〈振り返り〉

苗を買いに行ったことで、自分たちで育てると意識に繋がっていくと思うので良かった。道中の楽しかった思い出なども含めて、夏野菜を育てる楽しい経験として心に残ってくれたらと思う。

苗を買って帰ってきた後に、全員で植えるのは難しいので野菜のグループごとに順番に植えたり、植えたら水をあげるなどの手順を事前に子どもと確認しておけるとよかったと思う。苗を袋にいれて持って帰ってきた思い出もあって、「これはおれのきゅうりだ」と他クラスの子に言っている姿などもあり、これからの栽培活動への興味や主体的な関わりを期待したい。

収穫した野菜を食べてみよう！

〈7月からの様子〉

- ・収穫した野菜をみんなで食べる。
- ・ホットプレートで炒めて調理する。

収穫した野菜を見せながら調理を始める。「今日はこんなキュウリがとれたよ」と見せると「おおきい！」と声が聞こえてきたり、加熱していい香りが漂うと「おいしそうなおいがしてきた」などワクワクしながら完成を待っている。

野菜を配りに行くと、「ちょーだい」「たべたい」とあちこちから声が聞こえてくる。野菜が苦手な「たべない」という子もいるが、挑戦する子の姿もあった。

〈振り返り〉

ぞう組が中心となって育ててきた野菜だが、クラスのみんなで一緒に食べることでクラス全体への取り組みとなっている。収穫した時から、食べることを楽しみにしており職員の調理の様子もよく見て「ほうちょう、きをつけてね」など声をかけている。みんなで食べる喜びのなかで、野菜に苦手意識をもっていた子が挑戦したり、実際に食べてみたら美味しかったという声も聞こえている。食育の大切さを実感する。



〈8月からの様子〉

- ・ピザづくり(餃子の皮に好きな具材をのせていく)
- ・「なかよし仲間」(異年齢の生活グループ)の分のピザを作る

まずは自分のピザを作る。自分で具材の量を調整したり、綺麗に並べたりとそれぞれの性格がよく出ている。なかよし仲間の分を作る時は「〇〇くんは、ピーマンにがてだからちょっとにした」と言ったり、食べる子の好き・嫌いを考えながら作っていた。

お昼の時間にみんなで食べると、「おいしい」という声と同時に笑顔がみられた。普段、野菜を食べないかば組の子がピザを完食し、給食の野菜まで食べていた。ピザを食べた職員が「おいしいよ」とぞう組の子どもたちに声をかけると嬉しそうにしていた。翌日には、「ピザまた、つくらないの？」という声が聞こえてきた。



〈振り返り〉

自分たちで育てた野菜を料理して、美味しく食べることができた。これまでも、収穫した野菜を炒めてみんなで食べてきたが、子どもたちの大好きなピザになったことで野菜が苦手な子が挑戦していたり、野菜=嫌い・苦手という意識が少しずつ和らいでいるように思う。

クッキングの内容も具材をのせるだけという簡単なものであったため、手軽さがあり子どもたちも疲れることなく楽しく取り組んでいたのも印象に残った。引き続き、食べることの喜びを分かち合えるような環境を整えていきたい。